

英国とフィンランドのコモンズを訪ねて

2012/9/13 9/25

9月14日(金): オープン・スペース・ソサエティとランブラ - ズ協会ヒアリング、コミュニティ・フットパス体験など @ブリストル市(ロンドンの西方バス1.5H)



オープン・スペース・ソサエティのクリス・プロアー氏(右から2番目)とランブラーズ協会のS・カーター氏(左から2番目)にヒアリング



C・プロアー氏の案内でフォレスト・オブ・エイボンのコミュニティ・フットパス体験。中央は地元ガイドの白鳥氏



一人ずつ抜けられるゲートを通して、農場やゴルフ場などでも自由に出入りできる。これはキッシング・ゲイトと呼ぶ



フットパスでは、昼食でパブに立ち寄るのがイギリス流。今回はC・プロアー氏に追加のヒアリングをしながら昼食を



多くのウォーカーが立ち寄る石像を囲んで記念撮影。
WOODWOSE と呼ばれる土地の神



フォレスト・オブ・エイボン・トラストでJ・クラーク氏にヒアリング。あいにくプロジェクトは方向転換し縮小していた

9月15日(土): トランジション・タウン、ストラウドを訪問。マーケットとエコハウスを視察。その後、移動してコッツウォルド・ウェイでパブリック・フットバス体験



駅の駐車場に掲げられているストラウドのイラストマップ。ストラウドは脱石油型社会を目指すトランジション・タウンだ



地元の人たちで賑わう、ストラウドのマーケット



マーケットそばに断熱改修などを施したエコハウス(エコノバージョンハウス)を公開していることが紹介されていた



地産地消が実践されているファーマーズ・マーケット。よそのトランジションタウンはオーガニック野菜など有名



断熱材と薪ストーブ・ボイラーの導入によってガス利用を抑えたエコハウスを視察。ストーブの中に循環用パイプ内臓したCH



薪は購入せず、自分で調達するというニック・ウィアー氏。4年前にエコハウスに改修したそうだ



建築家のヘニー・シャンカー氏は断熱材や屋上緑化などを組み合わせたことを改築時の写真とともに説明してくれた



ストラウドにあるグリーン電力会社、エコトリシティ。週末のため、残念ながらヒアリングはできなかった



ストラウドから移動し、ウォットン・アンダー・エッジへ。街で見つけたコッツウォルド・ウェイの看板



ウォットン・アンダー・エッジの街からコッツウォルド・ウェイのパブリック・フットパスへ。地元のウォーカーとともに



パブリック・フットパス内にあるサイン。この道は延長 163km で、英国にはナショナルトレイルだけでも 3200km ある



コッツウォルド・ウェイの終点地・バース。「線を描いた建物が美しい」The Circus」周辺

9月16日(日): ランブローズ協会主催のフットパスツアーに途中まで参加。その後、ブリストル在住のフットパス愛好者にヒアリング @ブリストル~チェダー



フットパスツアーで出発前の挨拶。我々は参加したルートは12マイル。すでに出発した14マイル歩くチームもあるという



我々はこの後のヒアリングのため、途中で進路変更。皆さんとお別れする前に記念撮影



フットパスのルートはサインの矢印が方向を示す。写真のサインは、左右に2つのルートがあるという意味だ



「パブリック・フットパス」の看板があるところは、庶民が「歩く権利」を有する歩行道だ。全英に24万km



石が積み上げられたキッシングゲートは古い時代のものだといふ。乗り越えるこの形式は「スタイル」と呼ばれる



昼食を取りながら、フットパス愛好者・但田美紀子氏(左端)に利用者の視点から commons やフットパスについてヒアリング

9月17日(月): 田園都市レッチワース訪問 @ロンドンから北へ1時間



レッチワースの鉄道駅で記念撮影



レッチワース駅前の様子



レッチワースの田園都市歴史博物館の前で



田園都市の提唱者・エベネザー・ハワード氏のろう人形も飾られている博物館内部



ハワード公園の看板



博物館裏手に広がるハワード公園



街の核となるブロードウェイ・ガーデン。奥に進むと鉄道駅に行きつく



ブロードウェイ・ガーデン地面に掲げられたハワード氏の最初の田園都市構想

9月18日(火): ウィンブルドン・コモン、エッピング・フォレスト視察など @ロンドン郊外



朝のウィンブルドン・コモン。ジョギングする人、犬の散歩をする人、自転車で通勤する人など、様々な人たちが行き交う



地下鉄エッピング駅で記念撮影。ここは終点



エッピング・フォレストの看板の前で。案内図、サインはなし



エッピング・フォレストはロンドン近郊最大の森林公園。約120年間、開発が控えられている市民の森だ



エッピング・フォレストの森に入る手前の広場にも巨木が茂る



6千エーカーあるエッピング・フォレストを効率的に散策するため、地元のウォーカーにアドバイスを求める。しかし、要領を得なかった



ウィンブルドン・コモンの看板。90種の野鳥のほか、アナグマやキツネが生息する特別学術対象地でもある



夕方のウィンブルドン・コモンの。散歩をする老夫婦や学校帰りの学生など、たくさんの人たちが通り過ぎる

(9月19日は英国からフィンランドへの移動日)

9月20日(木): ヘルシンキにて、スオメン・ラトゥ、森林公社、環境省を訪問



スオメン・ラトゥ(スポーツ・野外活動中央協会)。スキーやサイクリングなど野外活動の普及・推進活動を行っている



9月に環境省の職員と万人権についてのガイドブックを出版した、スオメン・ラトゥのA・ラウティアイネン氏にヒアリング



「ムーミンのスキー教室」を開催しているスオメン・ラトゥ。イベント用のムーミンのぬいぐるみと一緒に記念撮影



森林公社ではM・ヘイノネン氏(右端)とM・アアルニオ氏(右から2番目)からプレゼンテーション。その後、質疑応答



環境省のP・ツツナネン氏(左端)とM・タラステイ氏(中央)は、スオメン・ラトゥのA・ラウティアネン氏とともに万人権のガイドブックを執筆



環境省で万人権を担当しているスタッフは、ヒアリングをした2人だけだという

9月21日(金): 北海道大学ヘルシンキ事務所、ヘルシンキ大学セミナー参加



午前中の自由時間に撮影したヘルシンキのマーケット。万人権によって採取されたさまざまなキノコが並ぶ



ベリー摘みも万人権が適用される。キノコもベリーも販売を目的とした商業利用であっても万人権が適用されている



9月に小磯教授が北海道大学公共政策大学院特任教授に就任し、北海道大学ヘルシンキ事務所にご挨拶にうかがう



我々を含めて 14 人が参加したヘルシンキ大学での万人権についてのセミナー。奥の右から3人目がK・ヌオティオ教授



環境法、刑事司法、法制史、法哲学、憲法を専門とする5人の教授から、万人権について発表をいただいた



最後に意見交換を行った。ロシア法の専門家からはロシアにおける万人権の考え方などが報告された

9月22日(土): ヌクゥーシオ国立公園訪問。万人権についてベリー摘み体験、フィンランド人の自然との接し方などの視察 @ヘルシンキ



ガイドの紹介でヒアリングに応じてくれたご夫婦が持参してくれたキノコの専門書。一家に一冊はこうした専門書があるという



バスの待ち時間を利用してカフェでヒアリング。左から2番目がヒアリングに応じてくれたマールク氏



バス下車後、ヌクーシオ国立公園に向かう看板の前で。左から2番目がマルク氏の奥様のツウラ氏



ヌクーシオ国立公園のインフォメーションセンター。マスコットのモモンガのイラストがかわいらしい



ヌクーシオ国立公園の散策ルートの歩行道で記念撮影。中央はガイドのウラ氏。森はトウヒ、アカマツ、ヤマナラシなど



森に入ってベリーを探す一行。歩行道をそれるとすぐに見つかるほど豊富だ



9月は赤いリンゴンベリーが採れる。全山、ベリー尽くし、ブルーベリーも混じる



リンゴンベリーのほか、ブルーベリーもまだ残っていた。みんなの収穫は翌朝の朝食に



公園内の散策ルートは、塗り分けられた色の木のマークを目印にたどるだけ。とてもわかりやすい目印だ



坂には階段が設けられているところも



万人権では、火の扱いは厳しい制限が設けられている。国立公園は、写真のようなたき火場のみで火を使うことができる



遅い昼食はたき火場でウィンナーを焼いていただいた。他の家族との会話も生まれ、楽しい空間だ



ヌケーシオ国立公園から同じバスで鉄道駅に戻ってきたフィランド人。手にしたカゴには……



万人権で採取したキノコがいっぱい！

9月23日(日): スオメンリンナ島訪問 @ヘルシンキ



雨のため予定を変更し、スオメンリンナ島へ。その前に、ガイドのウラ氏からフィンランドでの暮らしについて写真を見せてもらう



小型フェリーでスオメンリンナ島に向かう



フェリー内でスオメンリンナ島のパンフレットをチェック



スオメンリンナ島のマップ。魚釣りは万人権が適用される



戦争の舞台となったスオメンリンナ島。今も大砲や砲台が残っている



スオメンリンナ島は世界遺産に指定されており、散策路も整備されている

編集；プランニングメッシュ 関口麻奈美さん（赤字は草苺加筆）